

# 科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

(221)

## 環境負荷の要因

「食」は健康や文化と深く関わり、毎日の生活に身近なものである。一方、食料の生産から消費に至るまでの一連の食料システムが、環境負荷の大きな要因となっている。国連機関によると、温室効果ガス（GHG）排出の30%、生物多様性損失の70%、森林破壊の90%は食料システムに起因するとされる。2050年、世界の人口は100億人に達

低減と食料需要の充足を同時に達成する、持続可能な食料システムへの抜本的な変革が地球規模の喫緊の課題だ。

## 国家主導の動き

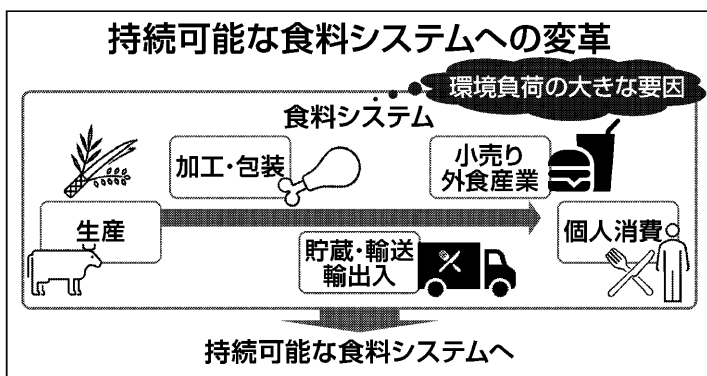
すると予想され、食料需要の大幅な増大が見込まれるなか、環境への負荷を考えずに現行の食料システムをそのまま拡大することは不可能に近い。環境負荷目されている。GHG

# 持続可能な食料システムに変革



科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センターフェロー（ライフサイエンス・臨床医学ユニット） 戸田 智美

東京大学大学院農学生命科学研究科修士課程修了。ライフサイエンス関連のテーマを対象に調査や分析を実施。



の食品開発も行われてきている。これら新技術開発と並行して、食料システムの環境負荷低減にどの程度貢献するかによって、日々の食事の一部が代替食品（植物由来たんばく食品など）に置き換わる流れが進むと予想される。持続可能な食料システムは技術革新だけでなく、その際、それは実現されない。産学これらの栄養成分の緻密な分析や健康面への影響など、栄養学からの研究が必要となる。消費者の行動変容も重要だ。英国において、食品の環境負荷を可視化し消費者に提示することで、環境に配慮した食品が選択されるか否かを検証する研究が進む。消費者行動（）に置き換わる流れが進む。消費者行動法の研究が必要だ。持続可能な食料システムは技術革新だけでなく、その際、それは実現されない。産学これらの栄養成分の緻密な分析や健康面への影響など、栄養学からの研究が必要となる。消費者の行動変容も重要だ。英国において、食品の環境負荷を可視化し消費者に提示することで、環境に配慮した食品が選択されるか否かを検証する研究が進む。消費者行動法の研究が必要だ。持続可能な食料システムは技術革新だけでなく、その際、それは実現されない。産学これらの栄養成分の緻密な分析や健康面への影響など、栄養学からの研究が必要となる。消費者の行動変容も重要だ。（金曜日に掲載）